曽於市写真コンテスト

曽於市内の魅力あふれる写真 108 作品が応募され各賞が決定。
入賞は、次の作品です。

議長賞　「鬼の来ぬ間にドンドコドン」
厚地　由美子 氏（霧島市）

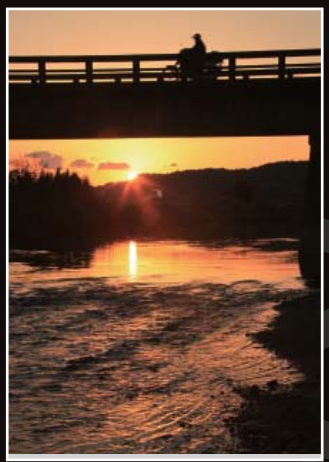
市長賞　「躍動」
辻　典昭　氏（加治木町）

入選　「弥五郎どんの浜下り
大迫　厚二 氏（都城市）

入選　「木材を見直そう」
長　秀子 氏（鹿児島市）

入選　「畜産の神様)」
諏訪園　保 氏（鹿児島市）

入選　「見事命中」
福重　孝次朗 氏（都城市）



入選　「家路)」
上野　直孝 氏（都城市）

Photo Contest

Photo Contest

優秀賞「少年の晴れ舞台」長　勝幸 氏（都城市）

優秀賞 「特産品の収穫」 大社　正照 氏（鹿児島市）

入選 「学び舎の秋」
山田　宏作 氏（霧島市）

入選 「溝ノ口洞穴奴踊り」
中川　義昭 氏（鹿児島市）

入選「桐原の瀧寂景」
釜谷　智弘 氏（鹿児島市）

写真コンテスト・審査講評

恒例の「曽於市写真コンテスト」は県内外から108点の作品が応募され、2月10日に審査が行われて14点の入賞・入選作品が選ばれました。応募された作品は地域の伝統行事や美しい自然・風景をテーマにしたものが多く、それらは曽於市の魅力や環境を表現する貴重な作品となっています。

一方、曽於市には畜産や農業など地域を支える産業があり人々の営み生活があります。昨年の講評でも書いたのですが、そうしたテーマに着眼した作品が少ないのは寂しく思います。

祭りやイベントだけでなく、生き生きとそこに暮らす人々と地域を活写した作品が応募されれば、一層魅力あるコンテストになるのではないでしょうか。

写真は単にそこにある被写体がコピーされるのではなく、撮影者の感動や視点が色濃く反映されます。そのためには、例えば構図やカメラアングルなど、写真表現上での工夫と技術も評価のなかで重視されます。

そうした努力の成果が多数応募され、地域の姿が魅力ある発信になることを期待しています。

（社団法人）日本写真家協会
（ＪＰＳ）会員　熊副　穣

入選 「そお街道秋の夕景色」
吉永　文哉 氏（霧島市）

入選 「北の星たちと霊峰のハーモニー」
赤石　透 氏（霧島市）